

令和7年度 京都府立与謝の海支援学校 学校経営計画（スクールのマネジメントプラン）実施段階

学校経営方針(中期経営目標)	令和6年度学校経営計画の成果と課題	本年度学校経営の重点目標（短期目標）
<p>◇一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育課程づくりを進める。</p> <p>◇自立と社会参加する力を育てるために、基礎学力の充実に努めるとともに進路指導の充実に図り、希望進路の実現を目指す。</p> <p>◇安心・安全な学校環境の整備を行う。</p> <p>◇地域における特別支援教育のセンター的役割の推進に努めるとともに、教育、医療、保健、労働、福祉等の関係機関、家庭及び地域社会との連携を行う。</p> <p>◇専門性の向上に向けて研修を充実させ、指導内容や指導方法の工夫改善を行う。</p> <p>◇教育財産の継承に努め、「与謝の海の教育」の発展・向上を図る。</p>	<p>○授業研究や教育課程検討会議等を通して、12年間の学びのつながりを検証したり、行事プロジェクトの立ち上げによる行事や取組の見直しを図ったりして、教育課程の見直しを行った。社会の変化に応じた自立と社会参加の力をつけることを目指した教育課程の編成と実施に向け、引き続き見直しを図る必要がある。</p> <p>○保護者等と丁寧に指導目標を共有しつつ指導、支援を進めた。また、関係機関との連携も積極的に行い、児童生徒理解を深め、指導、支援につなげた。</p> <p>○地域とつながる授業づくりについて全校で研究を進め、児童生徒の変容からその意義を全校で確認できた。今後も地域協働学習の意義を確認しつつ12年間つながりある教育課程づくりを進めていく。</p> <p>○進路指導部が中心となり、保護者や関係機関と連携しつつ、進路指導を行った。ワークショップ形式で実施した福祉事業所・職業訓練校説明会は、対象を全学部保護者等に広げるなどして進路取組を進めた。今後も系統的な視点をもった進路指導の充実に図る。</p> <p>○地震発生時の連絡や不審者対応等について安全防災計画の見直しを図った。PTAと連携し、引き渡しカードの使い方についても保護者等と共有することができた。自然災害、不審者対応等について、あらゆる想定下での訓練実施は引き続きの課題である。</p> <p>○各学校や関係機関等と連携を深め、長期にわたりステージ移行期の成長について確認したり、支援や進路先等について話し合ったりしつつ地域の支援力の向上につなげた。</p> <p>○各分掌等が必要に応じて計画し、年間を通して多くの研修を実施し専門性を高めた。今後、年間を通してより効率よく教職員が学び、児童生徒の指導、支援に生かせるように学びのプログラムを構成する。</p> <p>○各分掌や担当の部長等を中心に各取組や行事等をスムーズに進めた。一方、気候変動の影響もあり、従来通りの教育活動の実施が難しくなっており、来年度に向けて変更案の検討を進めた。変更後のスムーズな運営を図るため分掌や業務内容の見直しが必要である。</p> <p>○ホームページのリニューアルを進めるとともに、更新回数も大幅に増やし、保護者や地域への学校教育の発信に努めた。教育内容をより具体的にタイムリーに発信するための工夫が必要である。</p> <p>○ICTの活用や会議の効率化などを進め、業務改善を図ったが、業務内容の平準化については課題が残った。分掌やその業務内容の見直しを含め、さらなる改善が必要である。</p> <p>○研修やその後のアンケート調査等を通して、府民の信頼を得られるようコンプライアンスに係る意識を高めた。</p>	<p>【教育課程】</p> <p>◆小学部から高等部の12年間や卒業後の生活や就労、校種間等の学びの連続性を踏まえ、児童生徒の能力や可能性を最大限に引き出し、社会の変化に応じた自立と社会参加の力を育てる教育課程の編成と授業改善をさらに進める。</p> <p>【個別の指導計画等】</p> <p>◆的確な実態把握に基づく指導目標の設定やよりよい評価の在り方を引き続き検討し、系統性のある指導を行うとともに、教育課程の評価と改善につなぐ。</p> <p>【地域連携】</p> <p>◆地域との連携・協働による授業実践をさらに進め、地域住民や保護者等の参加による多様な授業づくりが継続的に実施できるよう教育課程の改善につなぐ。</p> <p>【進路指導】</p> <p>◆本校が継続して取り組んできた進路指導を更に充実発展させるとともに、一人一人の希望進路の実現を目指し、キャリア教育の視点をもって全学部において系統的な指導や取組を行う。</p> <p>【防災教育】</p> <p>◆実行的・持続的な校内の防災対策や安全・防災教育をさらに充実させるとともに、中長期的視野に立った計画を策定し、実施する。</p> <p>【センター的機能】</p> <p>◆関係機関との連携を密にして、地域のセンター的機能をさらに発揮し、乳幼児期から社会参加までの切れ目のない支援のさらなる充実に図る。</p> <p>【研修】</p> <p>◆多様な教育的ニーズに応じた確かな指導、支援やICTの利活用による社会の変化に対応した授業づくり等をさらに進めるため、全教職員の専門性や資質を高めるニーズに応じた研修を年間通じて実施する</p> <p>【組織運営】</p> <p>◆各分掌部長等が中心となり、より効率的な学校運営を目指すとともに、児童生徒の成長につながる行事や取組を進め、教育活動全般のさらなる改善を図る。</p> <p>【広報活動】</p> <p>◆ホームページのさらなる充実に努めるとともに、保護者連絡ツールやSNS等を通して積極的に広報活動を行う等、効果的に本校の教育活動を発信する。</p> <p>【業務改善】</p> <p>◆ICT等の活用により、さらなる業務の効率化を図るとともに、全教職員がやりがいをもって業務にあたることのできるような様々な取組を進める。</p> <p>【コンプライアンス】</p> <p>◆コンプライアンスに係る意識を高め、引き続き府民の信頼を得られるように努める。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
組織・運営	<ul style="list-style-type: none"> 各分掌部長等が中心となり、より効率的な学校運営を目指すとともに、児童生徒の成長につながる行事や取組を進め、教育活動全般のさらなる改善を図る。 コンプライアンスに係る意識を高め、引き続き府民の信頼を得られるように努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学部や分掌等において組織的に業務を進めるとともに、実務を通して授業実践や業務をつなぐ。 教務部長の各学部における位置づけと業務内容を見直し、12年間つながりある教育実践が円滑に進むよう学部間や教職間等の連絡調整及び環境調整を行う。 各学部において、役割を明確にしたり情報共有の仕方を工夫したりして、円滑に連携・協働できる体制づくりを進める。 校内外における研修等を生かし、組織力の向上を図るとともに人権意識の向上を図る。 就修学支援部や生徒指導部等が中心となり、必要に応じて校内ケース会議を実施し、児童生徒の情報共有や課題の明確化、具体的な指導内容の確認等を行う。 児童生徒が主体的に生活できる環境づくりを目指すとともに、寄宿舎生活と地域社会を繋げ、寄宿舎教育の充実を図り、保護者等と協働して、寄宿舎の生活づくりを進める。 	B	<p>【組織運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各分掌・学部が連携して行事運営や各取組を進め、組織的な対応の推進が図られた。特に教務部長の業務内容を見直したことにより、学部間の連絡調整が円滑に進んだ。また、各学部においては、校内外における関係機関との連携や専門家との連携による実態に応じた研修などを進めたことにより、実践力の向上につながった。 生徒指導部や就修学支援部を中心に、関係教職員が連携して事象対応を行い、組織的な対応を進めることができた。一方で、対応や連携の在り方には事案によるばらつきもあり、情報共有・初動・記録・役割分担等にさらなる改善が必要である。 寄宿舎では、買い物や調理など、地域社会とのつながりを意識した新たな取組を進め、児童生徒の経験の幅を広げることができた。
	<ul style="list-style-type: none"> 働き方改革に係る業務の効率化を図るとともに、全教職員がやりがいをもって業務にあたることのできるような取組を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 円滑に連携・協働できる体制づくりをさらに進め、働きがいのある職場環境を作る。 組織的、計画的に業務を進めるとともにICTのさらなる活用を推進し、会議、環境、業務内容等の改善を図り、効果的、効率的な運営を行う。 	A	<p>【業務改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> ICTの活用により、ペーパーレス化や情報共有が進み、業務の見通しの向上と負担軽減につながった。一方で、業務の平準化には至っておらず、校務分掌の再編と分担の見直し、年間業務の可視化等を進め、働き方の多様化に対応しつつ、特定担当への業務集中を抑える必要がある。
	<ul style="list-style-type: none"> 校内の防災対策や安全・防災教育を発生時の被害をより具体的に想定しつつさらに充実させるとともに、中長期的視野に立った計画を策定し、実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各訓練等の成果と課題や専門家の意見等を踏まえて、地域の災害リスクを踏まえた重大災害時のマニュアルや不審者対応マニュアルについてさらなる見直しを図る。 学校安全の中核を担う教員の位置づけを明確にし、児童生徒が考えて行動する避難訓練や不足の事態を想定した避難訓練、緊急時引き渡しカードを活用した保護者等との協働による訓練等、実効的・持続的な取組を行う。 医療的ケアの必要な児童や食物アレルギーのある児童生徒、配慮を必要とする児童生徒等の対応について、校内において丁寧な情報共有するとともに対応について協議する。また、全教職員の専門性の向上に向けた研修を実施する。 校内における安全点検のあり方を見直すとともにAEDを含む心肺蘇生法など応急手当に関する研修等をさらに進め、全教職員の危機管理意識を高めるとともに適切な対応ができるよう研修を実施する。 児童生徒の安心・安全な学校生活に向けて、状況に応じた感染症予防対策を講じたり、食に関する指導の校内基本確認事項の確認や見直しを図ったりする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 各学部において情報共有の仕組みを工夫したり会議のルールを明確にしたりすることで効率化を図り、勤務時間・会議時間の短縮や授業づくりの時間確保につながった。 <p>【学校安全】</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害時や不審者侵入を想定した緊急時対応訓練を複数回実施し、対応の流れや役割分担等について確認するとともにマニュアルの見直し点が具体化した。想定は拡大と、日常の予防・備えの定着は引き続きの課題であり、訓練を継続しつつ、見直し内容を年度内に反映してより実効性のあるマニュアルへの更新を進める必要がある。
	<ul style="list-style-type: none"> ホームページのさらなる充実を図るとともに保護者連絡ツールやSNS等を通して積極的に広報活動を行う等、効果的に本校の教育活動を発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページやSNS等によるさらなる情報発信に努め、校内の教育活動をタイムリーに発信する。 地域住民や保護者等とともに体験したり活動したりする場を設けるなど、積極的に本校の教育を発信する機会をつくる。 	B	<p>【広報活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> HP更新やSNSの運用開始などにより学校の発信を進めることができた。一方で、更新頻度の学部間差やSNSの運用停滞等の課題が残った。来年度の公式SNS全面公開に向けて、信頼と共感を得られる「伝わる発信」の在り方を整理し、運用体制を整備する必要がある。 保護者連絡用アプリの活用により、緊急連絡を含む各種連絡を効率的に配信することができた。一方で、大雪によりバス遅延が頻発したこともあり、迅速性・確実性等の観点から、活用するアプリの見直しを含めた改善が必要である。

教育課程・学習指導	教育課程	<ul style="list-style-type: none"> 小学部から高等部の12年間や卒業後の生活や就労、校種間等の学びの連続性を踏まえ、児童生徒の能力や可能性を最大限に引き出し、社会の変化に応じた自立と社会参加の力を育てる教育課程の編成と授業改善をさらに進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 各プロジェクトを立ち上げ、これまでの行事や各取組間を関連づけたり統合したりしつつ、社会の変化に応じた児童生徒の成長につながる12年間つながりある行事や取組を行う。 多様化・複雑化する児童生徒の実態を踏まえつつ、全校の集団活動を推進するとともに、社会情勢に応じた日常的な指導(情報モラル、薬物、交通安全)を丁寧に行う。 指導略案の形式を変更し、児童生徒につけたい力を明確にした授業実践を行うとともに、単元計画表をもとに年間を見通した計画的な授業実践を行う。 教務部と研究部の連携・協働を進め、地域とつながる教育実践をさらに進める。 国語科を中心に図書室のあり方を検討し、児童生徒が本に親しむ環境づくりを行う。 	A	B	<p>【教育課程】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各プロジェクトの立ち上げにより、行事や取組の見直しを進め、児童生徒が主体となる活動の充実を図ることができ、成長につながった。特に今年度より実施した「YOSAフェスティバル」においては多くの来場者があり、児童生徒のもつ力を発信する機会となった。今後も引き続き、気候変動等の影響で従来通りの行事や取組等の実施が難しい状況を踏まえつつ、学習の目的を確認・整理し、12年間の連続性と卒業後の生活を見通した教育課程として、再編していく必要がある。 社会情勢の変化に応じた生徒指導を進めたが、SNSや情報モラルに関する指導については、予防的な視点をもちつつ引き続き日常的な指導に位置付け、継続的に取り組む必要がある。 指導略案の新形式の活用が進み、目標と評価を意識した授業づくりの推進につながった。 図書室の蔵書整理や図書委員会による「おすすめ本」コーナーの設置等により、読書に係る環境整備が進んだ。また、経済産業省探究支援事業を活用し、AR技術による絵本の取り組みに挑戦する等、新たな取組を進めたことで児童生徒の本に対する興味関心が高まった。 <p>【個別の指導計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者との対話や困り感の共有が進み、長期的視点に立った支援の充実につながった。一方で、様式や手順の使いやすさ、学部間での書式の違い等には課題が残り、今後、研修と併せて運用手順を整理し、日常の授業づくりや学習・生活指導に結びつく形で定着を図る。 <p>【授業研究】</p> <ul style="list-style-type: none"> 小・中・高・寄宿舎とも校外との連携が進み、地域協働の視点を取り入れた授業づくりが深まった。今後は、地域協働学習の実践を持続可能な形に整理するとともに推進体制を工夫するなどして、授業改善につなげていく必要がある。 <p>【進路指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業所説明会を継続開催したことで、進路先に対する理解促進につながった。一方で、継続年数を重ねる中、内容・方法(情報提示、体験要素、対象別の工夫等)の改善が必要である。また、保護者等が卒業後の生活や就労に見通しがもてるよう、さらなる情報発信の充実が必要である。 教務部を中心にキャリア・パスポートも全校で実施し取組の基盤を整えることができた。振り返りを踏まえ、より活用しやすい形に改善していく必要がある。 <p>【研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「学びプロジェクト」を発足し、校内研修の整理を進めた。日程設定の工夫は効果的であり、学習会で参加者増が見られる等、成果が見られた。今後、学びを点在させず、年間を通した研
	個別の指導計画等	<ul style="list-style-type: none"> 的確な実態把握に基づく指導目標の設定やよりよい評価の在り方を引き続き検討し、系統性のある指導を行うとともに、教育課程の評価と改善につなぐ。 	<ul style="list-style-type: none"> 的確な実態把握のもと、指導目標や指導内容、指導方法を明確にし、保護者や関係機関、指導者間で共通理解を図り、系統性のあるきめ細やかな指導、支援を行う。 個別の指導計画をもとに、各教科等における指導、支援のあり方を検討するとともに、児童生徒の学びの状況から、中長期的な視点ももちつつ目標設定や授業展開等を見直し改善を図る。 	B		
	授業研究	<ul style="list-style-type: none"> 地域との連携・協働による授業実践をさらに進め、地域住民の参加による多様な授業づくりが継続的に実施できるよう教育課程の改善につなぐ。 	<ul style="list-style-type: none"> キャリアステップ表や学習テーマ一覧表を引き続き活用し、さらなる実践を積み重ね、学部や校内における研究会にて共有することで、実践の発展へとつなぐ。 学校運営協議会の仕組みを活用するなどして、地域人材へのネットワークを広げ実践に生かす。 	A		
	進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 本校が継続して取り組んできた進路指導を更に充実発展させるとともに、一人一人の希望進路の実現を目指し、キャリア教育の視点をもって全学部において系統的な指導や取組を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 丹後圏域福祉事業所や専門校等の説明会について、資料の内容や提示の仕方等をさらに工夫して実施するなど、小学部段階から保護者等が卒業後の生活や就労にイメージがもてるよう取組を進める。 進路指導だよりを定期的に発行するなどして、保護者や地域進路指導について発信する機会を増やす。 キャリア・パスポートを作成し、学習や生活を見通したり学んだことを振り返ったりすることで、新たな意欲や将来について考える機会へつなぐ。 	B		
	研修	<ul style="list-style-type: none"> 多様な教育的ニーズに応じた確かな指導、支援やICTの利活用による社会の変化に対応した授業づくりをさらに進めるため、専門性や資質を高める教職員のニーズに応じた研修を年間通じて実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修プロジェクトを立ち上げ、教務部長や研究部長、情報教育部長、自立活動部長等を中心に、教職員研修のあり方を見直す。 従来から行ってきた校内研修や教職員のニーズに応じた研修、ICTの利活用など社会の変化に応じた内容について年間を通して効率よく学ぶための「与謝の海学びプログラム」を構成し、全教職員の専門性や資質の向上を図る。 	B		

						修体系としてさらに整理するとともに、教職員全員の専門性向上に向け、諸課題に対応するテーマを明確にした研修の実施が課題である。
地域連携	地域支援	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関との連携を密にして、地域のセンター的機能をさらに発揮し、乳幼児期から社会参加までの切れ目のない支援のさらなる充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の関係機関等とのさらなる連携、協働を図り、地域全体の支援力向上につなぐ。 巡回相談員による相談活動の機会を増やし、地域のセンター的機能のさらなる向上につなぐ。 	A	A	<p>【地域支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高等学校における個別の指導計画作成に継続的に関わったり、SSCとの連携により地域の支援力向上を目指した研修を設定したりするなどの取組を進めることができた。今後、さらなる向上をめざし、対面型の研修機会を増やすなどして、圏域内の支援者同士のつながりを生み出す工夫が必要である。 <p>【地域協働】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会の場を活用し、本校で研究を進めている地域協働学習について意見交換を行った。教職員は授業づくりに関する新たな着想を得るとともに、地域協働学習の可能性について認識を深めることができた。 行事参観、授業参観、懇談等を通して保護者との交流・連携を進めた。また、行事や販売会等のお知らせに力を注いだことにより、地域住民とのつながりも広がった。来年度も、まずは交流の継続・拡充を土台に進めるため、参画の機会を計画的に確保し、地域社会との共創を推進する必要がある。
	地域協働	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会の仕組みを活用し、地域とともにある学校づくりについて検討を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度の成果を生かし、学校運営協議会の場を通して、地域住民や教職員、保護者等が地域とともにある学校づくりについて話し合う機会を設定する。 保護者等や地域住民が参画できる行事や取組となるよう工夫し、場や体験を共有することでつながりを構築し、共生社会の実現につなぐ。 	A		

学校運営協議会委員による評価	<ul style="list-style-type: none"> 多くの取組が計画的・組織的に実施されており、学校運営全体は高く評価できる。 児童生徒が充実した学校生活を送っている様子がうかがえ、教育活動の成果が表れている。 地域協働学習の充実が図られており、本校の特色ある教育活動として定着しつつある。今後の更なる展開にも期待したい。 スポーツ面の充実や新たな取組の展開が見られ、学校の活性化につながっている。 教育課程の見直しや業務改善、広報活動の推進など、学校全体で改善が進められていることは評価できる。一方で、保護者アンケートでは「よくわからない」とする回答が比較的多い項目もあり、教育活動の発信や伝え方には改善の余地がある。 施設設備面に関する保護者の評価は厳しく、安心・安全な教育環境の整備が課題である。
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の成果と課題を踏まえ、新たな展開を次年度計画に具体的に位置付け、教育活動の充実につなげていくことが期待される。 地域協働学習については、交流にとどまらず、地域とともに学びをつくる視点を大切にしながらさらなる充実を図るとともに、その成果を積極的に発信していくことが求められる。 スポーツ活動に加え、文化的な活動や生活に生きる力の育成につながる指導も充実させ、児童生徒一人一人が自分のよさを発揮できる場を広げていくことが求められる。 新しい取組を進める一方で、業務整理や内容の精選を行い、持続可能な学校運営を図ることが必要である。 進路指導については、各学部の発達段階や実態に応じた内容となるよう工夫するとともに、途中編入する児童生徒や保護者への丁寧な支援を継続し、地域支援の充実へとつなげていくことが重要である。 施設設備面については、獣害対策も含めた安心・安全な教育環境の整備を進めることが必要である。